

シリーズ

豊中駅前歴史を振り返る

第3回 刀根山道の今・昔 その1「昭和初期を振り返る」

今回から数回に亘り、刀根山道について振り返ります。先ず最初にお話をお伺いしたのは、タバコ屋さんの辻本くにと子さん(88歳)です。本町3丁目のみなさんから「昭和の初めを語れるのはあの人しかいない」と聞き、お訪ねしました。

—— 今日には昭和の初め頃の刀根山道について教えてください。駅前のは以前にも松浦さんからもお聞きしたのですが……

辻本 今の一番街の入り口に「丸正」という紳士ものを売っていた店を覚えていますか?今はボゼムビルになっている所ですが、あそこに昔はカタイヤ(どんな字かは判らないが)という2階建ての大きな料理屋さんがありました。この辺りで祝い事や宴席を持つときは、みんなそこで会食をしたものです。大変立派な料亭でした。

向かい側には木村のパン屋がありました。大きなパン屋さんで銀座通り側にも面していました。沢山の方が働いていました。その中にシュークリームを作る職人さんがいて、私の家の離れで寝泊りしながら毎日シュークリームを作っていました。あの甘い美味しそうな臭いは今でも思い出します。

—— その頃からお店はたくさん並んでいたのですか?

辻本 お店が今のように並んでいるのではなく、道を挟んで家や原っぱ、田んぼもありました。道は今よりもっと狭かった。そんな中に建材店、煎餅屋、タバコ屋、あんま屋(マッサージ)などお店がある、そんな通りでした。

昔、一本松と謂われた大きな松の木が今の川田薬局と海雲丸との間にある路地のところに立っていました。以前一本松を切った跡に石碑が立っていましたが、いつの間にかなくなりました。この一本松を境に駅前の方をみなんじょ、千里川の方をきたんじょと呼んでいました。きたんじょの方は道沿いに余りお店はなく、大きなおうちが並んでいました。千里川の方に向かって、今、散髪屋さんがある辺りから道が急な下りになっていて、上の方の切り立ったところに家が立っていました。道ももっと狭かった。橋のたもと今の

お話が昭和初期から江戸時代まで飛びましたね。今日お伺いしたお話から、刀根山道だけでなく、昔、新免といわれたこの地域一帯の歴史にも興味が湧いてきました。

今日は有り難う御座いました。

(2009年4月7日辻本くにと子氏談。敬称は略させていただきます。)

辻本くにと子さん 大正9年11月3日生まれ
プロフィール 克明第2小学校 昭和8年卒
大手前高等女学校 昭和13年卒

※まちづくり会社が昨年開催したアイボリーフォーラムで使用した写真集CD-ROM「戦前・戦後の豊中駅前」(2,000円、松浦幸夫氏製作)を販売しています。(お問合せは 06-6858-6190 まで)



戦前の刀根山道 (松浦幸夫氏作成)

「戦前・戦後の豊中駅前」(CD-ROM)より

八百屋さんのある辺りに春になると、たけのこの市が立ちました。私も市が終わった後に空のたけのこの籠を持って帰ったりしていました。籠の中には通い(かよい)が入っていました。私が子供の頃、昭和の初めの頃です。

これは聞いた話ですが、法雲寺さんは今から400年ほど前に奈良からこちらに移ってきた。その時一緒に移り住んだ一つが辻本家だそうです。だからこの辺りは辻本の性の家がたくさんあるんです。他にもそのようなおうちがいくつかありますね。